日本在宅医療連合学会大会
第１回 地域フォーラム
小児在宅医療 ワークショップ企画

ドラマで考える 小児在宅医療における 家族とのコミュニケーション

あなたなら、
どう伝えますか

<事例シーン>

13歳 女児
重症心身障害。経口摂取は可能
現在は日常的な医療的ケアはない

4年前に地域の総合病院小児科主治医から訪問診療の依頼あり
当院は8年前から訪問診療を行う在宅療養支援診療所だ
診療の対象は高齢者が中心
全国的に小児在宅医療の担い手が少ないという事は聞いていた
依頼が来た時には即了解した

母親（43歳）は娘の経口摂取にこだわりが強い
何事に対してもやや真面目すぎるきらいがある
病状説明などは慎重に行うようにしていた
父親（44歳）は中学校教師
母親のことを気遣って早い時間に帰宅している
姉（17歳）は、快活な子だ
時折母に代わって食事介助を行う
学校の休みには訪問時によく話をした
彼女には将来看護師になりたいという夢がある

ここ最近、食事の際にむせるという話が多くなった
今年はすでに4回も入院加療となっている
入院中の担当小児科医からは
「経口摂取を継続するのは限界。」
「方針決定と家族への説明については在宅医に任せる」
と連絡があった
近いうちに両親と話をすることになった
・・・・

子どもの胃瘻造設の必要性を主治医は家族にどう説明するのが適切でしょうか。

事例ドラマを鑑賞し、小児在宅医療における家族とのコミュニケーションについて、皆さんと検討します。

ワークショップ コーディネーター
医療法人稲生会 理事長 土畠 智幸
出演協力 ELEVEN NINES

日時：2019年9月14日（土）
16時10分～17時40分
会場：教育文化会館 研修室403
参加：先着50名

参加ご希望の方は、右記URLから地域フォーラムへお申込みのうえ、当日会場へ直接お越しください。人数によってはご希望に添えない場合もありますことをご了承ください。

日本在宅医療連合学会大会
第１回 地域フォーラム
参加申込

http://zaitaku1forum.umin.jp/

お問い合わせ　電話：011-685-2799　mail：toseikai@kjnet.onmicrosoft.com
担当：高波　企画：医療法人稲生会/みらいつくりスタジオ